

平成26年度会計報告 区議会議員 石坂わたる 4年目のお金の話

議員には、3種類のお金が支払われています。まず、月々支払われる議員報酬です。一般にいう月給と同じようなものです。ボーナスと同じような期末手当もあります。

議員の活動費として、毎月15万円(年間180万円)の政務活動費を受領しました。区政についてのアンケート、放送大学の受講料などに使用しました。また、たつのご通信の制作費、郵送費などにも使用しています。支給された金額からオーバーした分は、議員報酬等から支出しました。

また、議会出席のための日当(交通費・昼食代など)として1回の議会出席につき3千円支払われる費用弁償を、17万1千円受領しました。しかし費用弁償は交通費・昼食代としては多額であること、昼食代は一般的に個人が支出するものであることから、**廃止すべきだと考えています**。杉並区ではすでに全廃されています。区への返還ができないため、**区外の下記公益団体に全額寄付をします**(買収にあたるため、区内の団体には寄付ができません)。

ゆめ風基金(予定)

NPO法人ゆめ風基金(阪神淡路大震災を機に自然災害の被災障がい者を支援しつづけている団体)

good aging yells(予定)

good aging yells(LGBTと色々な人が、いっしょに楽しめる未来をめざし、いろいろな個性をもった人たちが心地よく、自分らしく歳を重ねていける場所づくりを行う団体)

多文化共生センター(予定)

多文化共生センター(外国にルーツを持つ子どもたちの教育、特に高校進学支援に力を入れている団体)

【政務活動費(事業実績)】

研究研修費	▶ 44,000円
調査旅費	▶ 0円
資料費	▶ 32,400円
広報費	▶ 1,682,494円
会議費	▶ 0円
人件費	▶ 0円
公聴費	▶ 29,327円
事務費	▶ 13,259円
その他の経費	▶ 0円
合計	▶ 1,801,480円

また、上記の他に、所属委員会(石坂わたるの場合は厚生委員会)などの担当する内容に沿った視察であれば、年間の予算内で公費負担での議員の地方視察が行えるようになっています。

※視察費用について

政務活動費の視察費とは別枠で、議会全体の予算の中で委員会の視察費があります。委員全体での視察以外に、原則所属委員会の所管事項に関わる事項について、個人での地方都市行政視察も可能となっています。これを利用した昨年度の交通費・宿泊費等の使用額は52,510円でした。

ボランティア募集!

中野区内でのたつのご通信の配布、郵送準備などをお手伝いしてください。配布はご自宅の近くだけでもかまいません(50部程度から可能)。

メールニュース配信!

議会質問の日程やイベント予定などを、メールで配信しています。09wishizaka@mbr.nifty.com
たつのご通信は年に4回ほど発行予定です。ご希望の方には郵送いたします。**通信を郵送します!**

メディアに掲載されました!

アイルランド共和国の「IRISH TIMES」紙にて2015年4月4日付の「Japanese mayor salutes gay relationships」という記事に石坂わたるのコメントが掲載されました。

朝日新聞4月10日の地方欄に、石坂わたるについての記事「生きつらい社会を変える」が掲載されました。

「週刊女性」2015年5月26日号44-45p。「ついに動き始めた「同性婚」の行方」にて石坂わたるのコメントが掲載されました。

お話をうかがいます

▶中野区議会内では、無所属議員控え室に在室しています。ご相談・ご意見をうかがいますのでお電話・メールで在室確認の上、お気軽にどうぞ。また、3名以上の区民の方の集まりにも調整の上、お話をうかがいます。



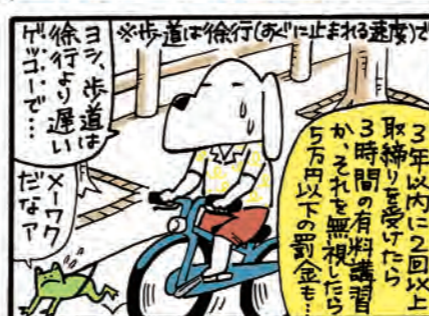
TEL&FAX(事務所) 03-6304-8758
TEL(無所属控室) 03-3228-8874
◀メールアドレス
09wishizaka@mbr.nifty.com

視覚障がい者の方など必要な方には音声版のたつのご通信(テープ/DAISY CD)をご用意できます。

すべてのお問い合わせはこちら! ↓↓↓ バックナンバーのお問い合わせもこちらまで!

TEL&FAX 03-6304-8758(事務所) または TEL 03-3228-8874(無所属控室) ✉ 09wishizaka@mbr.nifty.com

中野どらごん



お茶会

やってます。

9月6日(日) 16:00~18:30
鷺宮区民活動センター
▶鷺宮3-22-5 / 鷺ノ宮駅徒歩3分
和気あいあいと区のことについておしゃべりしています。お気軽にお立ち寄りください。

共生中野主催

次回学習会のお知らせ

8月28日(金) 19:30~21:45
鋼橋区民活動センター
▶本町5-47-13 / 新中野駅徒歩10分
「高齢者の生活や支援を考える」
講師:富田真紀子(看護師・社会福祉士)
内容:地域包括ケアシステムの全体像、介護保険、高齢者の暮らしを支える取組についてお話しいただきます。

不安と孤立を
見捨てない

石坂わたるの

中野区議会議員・無所属

たつのご通信



<http://ishizakawataru.net/>

@ishizakawataru ✉ 09wishizaka@mbr.nifty.com

編集・発行 共生中野 〒164-0014 中野区南台2-51-7-305 TEL&FAX.03-6304-8758
【中野区議会】〒164-8501 東京都中野区中野4-8-1 TEL.03-3228-8874(無所属控室)

2015・夏号

一人ひとりの人権や
多様性が尊重され、
誰もが安心して
暮らせるまちに。

石坂わたる



2期目の前半は、厚生委員会と、区内駅周辺等まちづくり調査特別委員会の所属となりました。福祉の地域づくりや、多様性にあふれるバリアフリーなまちづくり、住み続けたいと思えるまちづくりを考えていきたいと思っています。

4年数か月前の1期目の議員生活のスタート時と比べ、この4年間に多くの方との出会いがありました。人と人とのつながりの輪が広がり、そして多くの方から温かいご支援を頂いて、区議会議員として2期目をスタートすることができました。感謝の気持ちを、しっかりと働いて中野区政に還元していきたいと思っています。

教育や福祉の制度、災害に強く人に優しいまちづくり、性的マイノリティを含む社会の中の様々なマイノリティを取り巻く環境など、目まぐるしい変化が起こっています。1期目の任期中には区政に対する区民の代弁者として行政の行うことをしっかりとチェックし、区民の声を区政に反映していくことについて、難航したりもどかしい思いをすることもありました。

しかし、2期目はこれまで以上に迅速で臨機応変な対応、不安や孤立を抱えた人の目線に立った議員活動、一人ひとりの人権や多様性が尊重される地域づくり、誰もが安心して暮らせるまちをつくれるよう、さらなる取り組みを、無所属議員の立場から進めていきたいと思っています。

区政のことでお気づきのことやお困りのことなどございましたら、お知らせください。一步一步着実な区政の改善を進めていきたいと思っています。



新中野駅前で区政報告・街頭演説



なかの育フェスにて10円古本市を担当



中野区の食育キャラクターうさごはん

石坂わたる

1976年生まれ。養護学校教諭、区立第七中学校・第十中学校 介助員などを経験し、平成23年中野区議会議員選挙にて初当選(現在二期目)。精神保健福祉士、行政書士。

不安と孤立を見捨てるな **石坂わたる**

平成27年 第2回定例会 (6.22~7.7)

一般質問 (27.6.26)

災害時における 二次避難所※の周知

石坂 過去の質問でも二次避難所のマップ化について質問をしてきた。今年「大震災に備えるフォーラム」ではようやく会場内に二次避難所の場所が記載された手作り風の地図が掲示されていた。今後の防災マップについては二次避難所の場所を掲載すべきではないか。また、併せて災害時要援護者いわゆる災害弱者に特有の備蓄資材・機材等の状況も地図に掲載し、二次避難所の対象となる区民や、その支援者にしっかりと伝わる形で配布をすべきではないか。

田中大輔区長(以下区長) 二次避難所の開設は必要とする避難者の状況や対応可能な体制によって順次行うため、予め防災マップに記載しておくことについてはかなり工夫が必要になるので、その点を踏まえうえて、今後検討していききたい。



【用語解説】
 ※二次避難所 災害時において、避難所生活を続けることが困難となった、高齢者や障がい者、被災孤児、家庭での養育困難な児童及び乳幼児親子について、避難所では十分な救援、救護活動が実施できない場合に、中野区内の高齢者施設、障がい者施設、児童施設等に二次避難所を開設し、被災者の救援、救護活動を実施する。

二次避難所の備蓄・開設・運営の 責任の明確化と部署間の連携

石坂 二次避難所については障がい者、高齢者などについて、それぞれ特有のニーズがあり、人工呼吸器の利用者や痰の吸引などの

医療的ケアが必要な方の電源確保など、通常の備蓄物資だけでは対応できないものも少なくない。

しかし、現状では、こうした二次避難所の特性上必要な資材・機材について、日頃の施設運営と一体のものとして「支えあい推進室」「子ども教育部」「健康福祉部」がそれぞれの判断で動いており、区全体で十分に検討されていないように思われる。例えば医療的ケアが必要な障がい児者の二次避難所への受け入れや、その他の災害時要援護者のための二次避難所の運営をどう実効性のあるものにしていくのかなどの課題がある。

責任の所在を明確にし、区全体の二次避難所の在り方や、二次避難所特有の資材や機材等の配置や二次避難所運営の在り方を考えて取り組みを進めるべきと考える。また、二次避難所に避難してくる方の対応は専門性が求められるため、部署の垣根を越えた協力体制を強化することが必要と考える。

区長 二次避難所の資機材や運営については防災都市安全分野が中心となって行うこととしている。また、専門的な対応については高齢者、障がい者、乳幼児など対象者別に二次避難所の指定をした体制となっている。対象外の要配慮者が避難した場合の対応については今後の検討課題とさせていただきます。

石坂 二次避難所の運営体制について防災分野で進めていくということだが、今回質問を準備するにあたって、日常から高齢者、乳幼児、障がい児・者の各施設を扱う部署が異なるため、運営の在り方について認識の違いが感じられたり、すぐに回答がえられなかったり、担当者が知らなかったということがあった。日頃からしっかりと情報共有をしていただき、情報が一か所に集約されるとともに、それぞれの部署が何をすべきかきちんと認識できるようにさらに徹底すべきでは。

区長 指摘点も踏まえ、各担当が自らの責任、所管している仕事について十分に認識をして連携するようにしていきたい。いずれにしても、中心となって所管する専管分野がしっかりとしていることが大事だと認識している。

補足説明

現状では「支えあい推進室の取組み」で区内四か所の各すこやか福祉センターに発電機を導入、「障害福祉分野の取組み」で二次避難所としても指定されている施設の一部(発電機が設置されている障がい関係施設はいずれも西武新宿線よりも北側)に発電機を設置。区全体で見るとその配備箇所はアンバランスな状態になっています。日本赤十字社作成「福祉避難所設置・運営に関するガイドライン」でも「在宅酸素療法を必要とする呼吸器機能障がい者などを受け入れる場合は、電源の確保が必要である。」と記載されています。

水害に備えた、土嚢の配備場所の周知

石坂 水害用の洪水ハザードマップを作る際に、視覚的に分かりやすい形で土嚢の保管場所を記載すべきではないか。

区長 土嚢配備箇所一覧はホームページのみで紙媒体での配布は行っていない。土嚢配備箇所一覧についても紙媒体を用意し、希望される区民に配布できるようにしていきたい。また、洪水ハザードマップに土嚢配布箇所を掲載することについては今後検討したい。

性同一性障がい・性的マイノリティの 支援の徹底

石坂 文部科学省からの、平成22年4月の通知や今年4月30日の通知に書かれている性同一性障がいやそれ以外の性的マイノリティ(同性愛者・両性愛者・性同一性障がい以外のトランスジェンダー)についてもきめ細やかな対応をするように、各学校に伝えられたという認識でよろしいか。

田辺裕子教育長(以下教育長) 性同一性障がいや性的マイノリティの児童生徒へ対応などに関わる国や都からの通知などは区としても認識しており、既に各学校に通知し、校長会などで周知に努めている。

石坂 岡山大学病院の調査では、性同一性障がいで自殺を考える子どもは中学生でピークを迎え、実際に自殺未遂や自傷行為をしたり、不登校になったりすることもある

とされている。

また当事者の声として、学校の担任などの教員が気づいていないことも多く、「学校の先生に相談したくても相談できない状況にある」「小学校3年の頃に自分の性別に違和感を覚えたが長い間、『ばれたらいけないことだ』と思い、誰にも相談できずに悩みを抱えてきた」という例がある。

性同一性障がいやその他の性的マイノリティの児童生徒への配慮、性的マイノリティに対する他の児童生徒の偏見の助長を防ぐとともに、人権意識を育てることに繋がることとして、性的マイノリティ全般について心無い言動を教員自身が慎むことや、児童・生徒間で性的マイノリティを揶揄する発言などを目にした際にはきちんと注意・指導をすることを早急に全ての教員に徹底すべきと考える。

また、教員や学校関係者が適切な対応ができるようにするため、性的マイノリティ全般に関する研修が必要と考えるが、今後の実施に向けた考えをお聞かせ願う。

教育長 各学校では性的マイノリティを含め、幼児・児童・生徒への対応について当該児童生徒の人権が損なわれないよう慎重な対応に努めている。教育委員会としては、これまでも教員の人権感覚を養うために、東京都人権施策推進指針に示された人権課題などを取り上げ教員に対する人権教育の研修を行っている。今後も性的マイノリティも含めた人権課題に対応すべく研修を進めていく考え。

補足説明

文部科学省から、性同一性障がいの児童生徒への教育相談を徹底するよう求める「児童生徒が抱える問題に対しての教育相談の徹底について」という通知(H22.4)、「性同一性障がいに係る児童生徒に対するきめ細やかな対応の実施等について」という通知(H27.4.30)が都道府県の教育委員会などに対して出されています。「性同一性障がいに係る児童生徒に対するきめ細やかな対応の実施等について」では、性同一性障がいやその他の「性的マイノリティ」の児童生徒全般につ

いて、自らの性の在り方について隠しておきたい傾向も踏まえつつ相談しやすい環境を整えていくこと、教職員自身が性同一性障がいや性的マイノリティ全般について心無い言動を慎むこと、児童生徒が戸籍上の性別にのっとった服装などをしていない場合にも否定したり揶揄したりしないことなどが書かれています。さらに、こうした支援を行うために、人権教育担当者や生徒指導担当者、養護教諭を対象とした研修、学校の管理職を対象とした研修、学校医やスクールカウンセラーの研修などで性同一性障害やその他の性的マイノリティについて取り上げることとされています。

平成27年 第2回定例会 (6.22、30、7.1) 厚生委員会

すこやか福祉センター関連の 区民サービスの縦割りを排する、責任の明確化や連携強化を指摘

- 今回の補正予算で東京都の「スポーツ振興等事業費補助金」がつき、スポーツ体験会などを行うとのこと。通常のスポーツだけではなく障がい者スポーツについて、あるいは健常者が障がい者スポーツを体験するといったことについて行わないのかと質問。
 永見英光健康福祉部副専事心得(地域スポーツ推進担当)より、「来年度以降の取り組みで考えていきたい」とのこと。
- 高齢者の在宅医療介護連携の「在宅療養(摂食・えん下機能)支援事業」では、「人材育成」を行うとのこと。外部の専門家(医師)を招く機会があるので、現に区が育成しているリハビリテーション支援などを行う多職種(歯科衛生士、ケアマネージャー、ヘルパーなど)の方々へのスーパーバイズをしてもらうことは考えないのかと質問。
- 中野区に区直営の葬儀場や民間と協定を結んだ区民葬儀場がないことについて、区民活動センターを活用できないのかと質問。
 新宿区では地域センターを葬儀場として貸し出しているが、新宿の場合は一般の利用者と葬儀で利用する場合の利用者の入り口が別の構造となっていることや、現状の中野区の規定では、葬儀という私的な利用に貸し出すことはできないとの回答。
 ※この他、福祉に関する部署間の役割や連携について(1)すこやか福祉センターには「地域ケア分野」と「地域支援分野」があるが、当福祉センターを所管す

る支えあい推進室の室経営は区役所内の「地域活動推進分野」が担うことになっている。「地域支援分野」と比べて「地域ケア分野」に関して室経営の担当の関わりや把握が弱いのではないかと指摘。(2)精神保健福祉の施策の組み立てについて、すこやか福祉センターと保健所と障害福祉分野の役割分担について質問。(3)HIVや難病について保健所と障害福祉分野の連携をしっかりと行うように指摘。

平成27年 第2回定例会 (7.3) 区内駅周辺等 まちづくり調査 特別委員会

- 沼袋駅の駅前通り拡幅が計画通りになると、防災の延焼遮断帯や、バス通りの両側通行が可能となる。しかし、商店街の活力低下につながる危険もある。高さ制限の緩和など、敷地面積が削られても延べ床面積が変わらないような規制の緩和を併せて行う必要があると指摘。
- 現在進行中の西武新宿線の連続立体交差化で、通勤時の渋滞が減り西武線をまたいだ南北移動がしやすくなり、区の北部住民がバスなどで中野駅方面に出やすくなる。一方、西武新宿線と東京メトロ東西線との相互直通運転が実現をされれば、これまでの中央線利用者が西武線を利用する可能性がある。人の流れが変わることに耐えうるだけの、人数をさばける駅の改札の構造などを考える必要があると指摘。
- 旧「なかのん」をはじめバスの乗降客数と採算ラインについて、ICカードリーダーや現金を利用しないシルバーバスによるバス利用客が、乗客数としてカウントされていないことが石坂の質問により明らかになった。今後、バス会社と区が便数や路線のニーズなどについて話し合う際には、シルバーバス利用者の利用状況も把握して交渉をする必要があると指摘。
- 障がい当事者参加の区内バリアフリー「まち歩き点検」では、視覚障がい者・聴覚障がい者の参加もあったようだが、全盲者と弱視者、ろう者と難聴者とは抱えているニーズが異なる。そうしたニーズの違いをしっかりと踏まえたバリアフリー化を進めてほしいと要望。
- 運転手のサポートにより乗降できる低床式・スロープ付きのバスが増えているが、バスロータリーの構造がカーブ状になっており歩道とバス乗降口が平行にならないため、スロープの利用が困難な場合がある。今後の駅周辺の整備ではこうした点も踏まえてほしいと要望。
 豊川士朗都市基盤部参事(都市計画担当)より、「当事者の声に対応していきたい」との答弁。

石坂わたるの 活動報告



- 3月28日 「つながる中野」
- 4月4日 法務省矯正研修所東京支所内の旧中野刑務所正門を見学
- 4月6日 LGBT法連合会発足式(中野セロにて)
- 4月5日 中野区立中野新明小学校入學式
- 4月6日 中野区立第一中学校入學式
- 4月7日 中野区立かみさき幼稚園入園式
- 4月8日 東京都行政書士会(中野支部)総会
- 4月20日 コープみらい「みらい広場」
- 4月22日 東京レイヴンボーイング(以下TRW)東京レイヴンボーイングフライドハット
- 4月29日 TRW「生まれてきたってこんなことクワイアのための『出産』教室」
- 4月30日 中野区議会議員当選証書授与
- 5月3日 TRW「国際シンポジウム」性の多様性」を活かした地域づくり」
- 5月4日 平和といのちと人権を「53憲法集会」戦争原爆貧困差別を許さないTRW「先生集会」LGBTと貧困
- 5月6日 TRW「性分化疾患」無縁社会」
- 5月7日 TRW「性的マイノリティのためのライフプランニング研究会」グループヒビングの光と影」
- 5月7日 コープみらい「みらい広場」
- 5月9日 東京総合保健福祉センター(古田の森「春祭り」)ボランティア編集講座受講生から取材
- 5月11日 区役所職員と議員の初顔合わせ会
- 5月12日 まちなかサロ(宮園)
- 5月13日 青少年育成南中野区委員会総会
- 5月14日 中野区立中学校PTA連合会総会
- 5月15日 KURASOU主催「おやこ暮らし大学」にてスピーカーとして出演
- 5月16日 NHKハートフォーラム「知っていますか?LGBT」当事者と語るセクシュアルマイノリティ」
- 5月17日 南台二丁目前原町会総会
- 5月17日 中野区民ふれあい運動会
- 5月18日 アイタホ横須賀、アイタホ多摩
- 5月18日、25日 早稲田大学エクスティンションセンター(中野校)消費資本主義から見る戦後日本経済」
- 5月18日 関東若手市議会議員の会研修会
- 5月20日、27日、6月3日、10日、14日 明治大学リハビリアカデミー(グローパーゼーション)の過去と未来」自治体総合フェア
- 5月20日 中野神明小、新山小、多田小運動会
- 5月23日 平和書道展
- 5月24日 大震災に備ええるフォーラム(中野ふれいず東京活動報告会)
- 5月28日 合同水防訓練
- 5月30日 第4回絆の会ふれあいコンサート
- 5月30日 中野区商店街連合会懇親会
- 5月31日 谷戸小学校、第七中学校運動会
- 6月3日 うさこほんを愛する会総会
- 6月3日 日報親善協会は会 懇親会
- 6月5日 中野区伝統工芸展
- 6月6日 南中野中学校運動会
- 6月7日 東京青年会議所(中野区委員会主催「第二成人式」)
- 6月7日 知的障害者青年学級「いずみ教室」南台商店街練日
- 6月8日 中野ハーキソン「病医療講演会
- 6月9日 中野区立新井小学校こたまた学級(知的障害特別支援学級)視察
- 6月11日 中野区立桃園小学校ひまわり学級(知的障害特別支援学級)視察
- 6月12日 中野カワ「被災地支援の打ち合わせ
- 6月13日 中野区立第四中学校平和の語り部派遣事業「あつぽ」学級(知的障害特別支援学級)見学
- 6月13日 映画「OYAKO」上映会 in 立教大学
- 6月16日 中野区立教会(立教大校)総会懇親会
- 6月17日 中野区被爆者団体「長広会」総会
- 6月18日 精神障がい者の就業施設「クルーブホーム」すばるカンパニー総会
- 6月18日 平和講演会
- 6月19日 バルーンなかの「バルーンアート」のボランティア団体活動への参加
- 6月20日 中野消防署にて「普通救命講習」を受講
- 6月21日 知的障害者青年学級「いずみ教室」なかの育えん準備
- 6月23日 学び場サポーター総会
- 6月27日 6月30日 集团的自衛権反対超党派中野街頭演説
- 7月2日 オレンジリボン(児童虐待防止)啓発活動に協力
- 7月2日 社会を明るくする運動「坂上で生き生きコンサート」
- 7月4日 中野区私立幼稚園親睦陸軍球大会
- 7月4日 中野区立谷戸小学校ほのほのファミリー合唱団練習
- 7月6日 中野 Gallery FREAK OUT展
- 7月6日 中野桃園教会周年礼拝(88周年)
- 7月11日 荒川区立荒川第五中模倣投票参観
- 7月12日 戦争やだね中野レイド
- 7月13日 コープみらい「みらい広場」
- 7月14日 早稲田大学「西洋政治思想」
- 7月14日 中野MIX(中野Society)を考える」